かがやき

耀

議会だより
KAGAYAKI
やかげ

No. 32

令和６年２月９日

○第４回 12 月定例会 ～補正予算・条例制定、付託審査報告
○一 般 質 問＜８名＞～質問台を降りて…ひとり言
○矢掛高校 ” やかげ学 ” 実習報告～議会広報紙編集に挑戦！
○臨時企画　まちづくり懇談会
『二十歳の夢…生まれ育った町の未来を語る』

令和６年矢掛町二十歳のつどい 実行委員会の皆さん

１月７日、開会直前！輝く笑顔で２０ポーズ

―第６回矢掛町議会 第４回 12月定例会―

町独自の給付金施策を評価

住民生活の安定へ…物価高騰対策の補正予算成立！

＊＊＊

令和６年度

～我が町展望～

議員かく語る！

間もなくスタートする新年度…合併70周年を迎え、次の将来を見据えた“まちづくり”への思い・方向性・取組について、各議員が考える行政課題をお伝えします。

浅野　毅

令和６年度は矢掛町合併70周年になり次の10年に向けての施策が必要と思います。

特に少子化、人口減、温暖化による環境問題等不安なことが多いですが、それぞれの課題に正面から真摯に取り組み、明るい未来になるよう、微力ながら頑張りたいと思います。

土田正雄

80才以上が1割を超える超高齢化社会を迎えています。中山間地域では人材不足となり、コミュニティ活動や集落の維持が難しくなっています。

行政として何が出来るのか、地元として何を行うのか、町民の声を聞き、「ひと」の集まる地域づくりを目指します。

花川大志

自然災害・コロナ禍の停滞から立ち上がるべく『ひと・まち・しごと』への適正な施策・予算措置が成されているか？…生活に密着した行政サービスは低下していないか？町民の代表機関である議会、そして議員として常に執行部に問い掛ける一年にしたいと思います。

川上淳司

令和６年度も引き続いて『ゴミ問題』『矢掛高校の存続に向けた問題』の解決を主な取り組みと考えています。

また合併70周年の記念事業を強力に推し進めると共に『かわまちづくり事業』を軌道に乗せられるよう町民の皆様と共に頑張っていきたいと思います。

石井信行

毎戸遺跡で直径30㎝もの礎石が発掘されました。その上の柱の大きさ、それにつながる建物の規模などもうかがい知れます。

古代山陽道とつながれば駅家跡と確定されます。日本中の目が注がれています。まちづくりに生かしたいものです。

小塚郁夫

人口が減少する中で町民・地域の実情を直視しながら問題意識を高めていきます。

自然災害に備えて農家の様々な懸案、特に農業用ため池堤体改修など、町の基幹産業である農業を側面からサポートするべく、積極的に行政に提言・提案を行いたいと思います。

原田秀史

令和６年度般質問「買い物弱者について」及び「買い物バス実証実験」の結果を踏まえ、特に高齢者の移動に係る交通体制の整備、また増加傾向にある「特定空き家及び管理不全空き家」問題に取り組んで参ります。

田中輝夫

人口減少が大きな問題となっています。人口減となっても町民が安心して心豊かに住み続けられるよう、財政の健全化をはじめ『安心安全なまちづくり』のために福祉・子育て・健康といった地域の課題を行政側に提言し議論しながら進めて参ります。

岸野榮治

町内人口増加対策として若い人たちが安心して子育てのできる施設の充実、安心して暮らせる家が建てられる住環境、家族共々に働くことのできる企業の誘致、高齢者の移動に優しい交通環境の整備等、住民が暮らしやすい『まちづくり』にしっかりと提言します。

福田京子

合併70周年の節目を迎えます。矢掛町の恵まれた自然環境を守り、地域コミュニティのつながりをより深めつつ、若い世代が安心できる子育てや教育、高齢者に優しい福祉が今後の課題と考えます。

皆様と共に対話をしながら尽力をいたします。

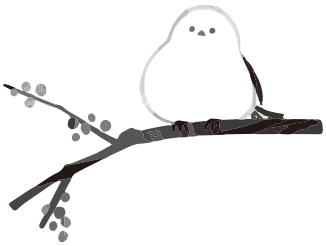
昼田政義

私のスローガン「地域の安心・安全」を守るために『健康・福祉の充実』『防災意識の高揚』『空き家対策』『農業振興』を掲げ、引き続き施策の充実を図って参ります。

今年合併70周年を迎え、町民皆様が矢掛に住んで良かったと思えるまちづくりに努めます。

土井俊彦

新たな振興の核とするべく『かわまちづくり計画』の進展を注視すると共に、一連の観光交流人口の増進施策として小田地区にも光を当てるべく『間の宿』や『干柿まつり』といった様々な見どころ・イベントを地区住民の皆さんと一緒になって盛り上げていきます。



＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

提案・要望…あれこれ聞きました！

～第４回～
12月定例会

一般質問

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

浅野　毅

(1)「歴史的風致維持向上計画」の策定について

9ページ

石井信行

(1)かわまちづくりについて

(2)国保税について

(3)町民の要望の受付について

5ページ

昼田政義

(1)自主防災避難訓練推進について

10ページ

土田正雄

(1)鳥獣害対策について

(2)河川発生土受け入れ地（育成牧場跡地）整備計画について

6ページ

岸野榮治

(1)農業振興対策基金の利用状況を問う

(2)地域計画策定の進捗状況と取り進め方を問う

11ページ

川上淳司

(1)道路にある構造物について

(2)夏季の中学生の運動部の部活動について

7ページ

小塚郁夫

(1)本町の教育行政での防災教育について

(2)充電設備の設置について

12ページ

田中輝夫

(1)水道事業の安全な水提供の取組について

(2)放課後児童クラブ利用者負担額軽減について

(3)不登校への支援対応について

8ページ

審議結果

＊矢掛町議会ホームページをご覧ください＊

http://www.town.yakage.okayama.jp/gyosei/gikai/gikai.html

“定例議会の審議結果”をクリック

やかげ観光大使 やかっぴ

携帯電話・スマートフォンの方はQRコードを読み取りください。

公正公平な入札・契約を望む！
国保税…税率を上げない取組を！
“町民要望”の受付基準は？

石井信行（いしい のぶ ゆき）議員

問 かわまちづくり事業の入札案内は「参入企業がなければ電通西日本との随意契約に移行」という電通西日本ありきの内容だ。その電通西日本は事前に実証実験を行いデータを持っている。

また参加資格書の提出期間も5日と短く、他企業の参入をおさえる入札案内は公正・公平さを欠いているのではないか？

答 建設課長
技術提案参加資格確認申請書は主に法人に関するものであり書類は町が様式を用意していたので時間的なものに問題なく、公正・公平さを欠くものではない。

かわまちづくり計画予定地（小田川）

問 東京五輪を巡る独占禁止法違反で告発された電通グループは14府省庁と4都道府県1市から指名停止処分を受けており、またかと町民の不安・不信が増すので、一旦契約を見直すべきではないか？

答 副町長
電通西日本はグループではあるが別会社。子会社でもなく、岡山県等の指名停止にもなっていない。

問 国民健康保険の現状、物価高騰等の中、国保税率が引き上げられたら町民の生活は大変になるので何としても税率を上げないようぜひお願いしたい。

答 健康子育て課長
現状の保険税率維持は困難であり、見直しが遅れれば上昇幅拡大の可能性もあるので可能な限り早急に見直しすべきと考える。

答 町長
財政状況や将来見通しに懸念があるが、社会経済状況等を踏まえ判断する。

問 国保の医療給付を全体で減らすべく自助努力を重ねる町民のため、健康促進への補助金をしっかり出していただきたい。

答 町長
健康づくりは幅広い分野だ。施策として今まで以上に推進していきたい。

問 町民の要望を受け付ける基準は何か？道路標示に限ってたずねる。

答 建設課長
通学路点検での要望箇所を最優先に整備するほか安全性確保のため緊急を要するものは早急に対処。

質問台を降りて…

ひとり言
浄水場の時には、岡山県から営業停止処分を受けていたのに、矢掛町に呼び込んだ。電通西日本は岡山県に処分されていないからと言うのはご都合主義。

鳥獣害対策…補助の見直しを求む！
宇角育成牧場跡地整備計画を問う
安全性を含めた維持管理を！

土田正雄（つちだ まさお）議員

問 鳥獣害対策について問う。農地と農地の間に耕作放棄地があるとイノシシ等の隠れ場所となる。この草刈りに対して「ハンマーナイフモア」は貸し出せないか？

また電柵やワイヤーメッシュの更新・修理に対して補助を行ってはどうか？

答 産業観光課長

ハンマーナイフモアは耕作放棄地解消事業として貸し出している。過去3年間の利用実績は5件と少なく今年度の利用はない。

鳥獣害対策は町内多くの地域の懸案・要望であり、同機械の貸し出しについては前向きに検討する。

電柵・ワイヤーメッシュの更新・修理は、引き続き集落で管理してほしい。

ハンマーナイフモア（自走式草刈機）

問 平成30年災害以降、小田川等の河道掘削工事の発生土を宇角育成牧場跡地へ搬入しているが地元説明会での約束の工事が行われないまま放置されるのであれば、大雨時の地元住民の不安は解消されない。県との基本協定書の中で、矢掛町としての対応を問う。

宇角育成牧場跡地の荒れ地の現状

答 建設課長

令和4年度から5年度の河川掘削発生土は育成牧場跡地へ搬入していない。水路工や仮設沈砂池は盛土完了工区では施工済みであり、同じく暗渠排水溝は盛土完了箇所については施工済みである。基本協定の定めに基づき、今後は県と協議しながら進めていく。

問 現地は草刈りが一度も行われておらず、のり面も確認できない状況だ。地元の安全確保、維持管理をどうするのかを問う。

答 副町長

草刈りも行っておらず現場は荒れ地の状態で管理ができていない。県工事ではあるが県との協定に基づき、町として維持管理・安全確認に努めたい。

質問台を降りて…

ひとり言

一度も草刈りをしていないということは、維持管理が全くできていないということになります。矢掛町として責任のある対応、また説明責任を求めます。

構造物の安全確保は大丈夫か！
海洋センターのエアコン活用を！

川上淳司（かわかみじゅんじ）議員

問 国道486号線沿いにあるバス停（西町・中町・東町）は小田川へせり出しており危険。町内の構造物はどのように点検しているか？

答 建設課長
バス停3か所ほか道路の構造物は道路管理者が管理している。橋やトンネルなどの重要構造物についても安全確認及び法定点検を適切に実施している。

問 道の駅周辺の歩道整備を行う予定は？

答 建設課長
道の駅周辺の歩道未整備箇所については、道路管理者である岡山県に対して既に要望している。

問 中学校の部活動での熱中症対策として、次年度からB&G海洋センターの利用ができないか？

答 教育課長
夏季の中学校部活動については熱中症事例もなく適切な対応ができていた。B&G海洋センターは教育の目的で使用する時は中学校に限らず小学校・認定こども園・保育園の使用時は空調を含め全額免除で使用可能となっている。

B&G海洋センター　アリーナ

また、スポーツ少年団のアリーナの使用については空調を含め大会・練習試合は全額免除だが、練習時は空調使用料は有料となる。

問 スポーツ少年団の練習では空調使用が減免できないことについては至急検討していただきたい。夏場の指導方法についてはどのようになっているのか？

答 教育課長
空調の利用についてはB&G海洋センターの運営委員会をはじめ各種団体と意見調整を行いたい。
スポーツ少年団への指導（通知）は「熱中症予防5カ条」としてまとめ、既にメールにて通知している。

提言 スポーツ少年団への対応の検討は一歩前進だ。今後も熱中症対策を怠らないようにして欲しい。

質問台を降りて…

ひとり言

安全と健康は、全てにおいて優先される事項です。このことを町民の皆様と確認できればと思います。

安全な水供給のための取組強化を！
放課後児童クラブ…負担軽減を！
不登校生徒…支援・対応の現状は？

田中輝夫（たなかてるお）議員

問 本町水道事業について水質検査・安全性及び水道管の更新状況を問う。

答 上下水道課長
本町では国登録の指定検査機関で定期検査を実施しており、浄水全51項目で基準値を満たしている。
水道管更新は今年度末で残延長は300m、令和7年度に更新完了する予定。

問 寒波による水道管凍結防止の啓発と断水に備えて給水車保有の考えは？

答 上下水道課長
各家庭内の給水装置の凍結防止依頼など、町ホームページや有線放送、広報紙等を利用し啓発を行う。
給水車の所有は難しく各避難所に災害用組立式給水タンクを配備している。

水質検査の行われる浄水場

問 放課後児童クラブの利用者負担額軽減免除制度の有無と補助に対する町としての方針と見解は？
また各クラブの運営を町で統一する考えはないか？

答 健康子育て課長
町全体の子育て支援策の中で保護者の経済的負担軽減の追加対策が必要かどうか判断する必要があると考える。来年策定の「子ども子育て支援事業計画」の中で、保護者や関係者の意見を聞き検討したい。
町として一つのクラブへの統一は将来的な選択肢の一つと考えるが現時点では各児童クラブ運営委員会の主体性を尊重したい。

放課後児童クラブの学習風景

問 不登校への支援対応と取組を問う。関連してICTを活用した遠隔授業について問う。

答 教育長
小・中学校に登校支援員・教育支援員を配置し、中学校には専用教室を設置。独自施策では「ひまわりの家」を設置し、不登校児童・生徒に個別支援を実施。
教育課としては関係機関との連携を密にし組織的に不登校対策に取り組む。
またICT・タブレットを活用した遠隔授業により不登校児童・生徒の勉学等に遅れがないよう、支援に取り組んでいる。

質問台を降りて…ひとり言
放課後児童クラブも子育て支援策の対象であり経済的負担額軽減措置を提言します。

歴史的風致維持向上計画の策定を！
歴史かおる文化のまちを後世に！
文化財の継承で地域振興を！

浅野（あさの）　毅（つよし）　議員

問　「歴史的風致維持向上計画」は『地域における歴史的風致の維持向上に関する法律（以下、歴史まちづくり法）』の施行に伴い策定されるもので、国交省・文科省・農水省の共管である。

この法律は歴史的風致が失われつつある状況を踏まえ、文化財行政とまちづくり行政の連携でこれを後世に継承する取組を国が支援するものである。

歴史的風致維持向上計画の申請には重点区域を定めるなど条件があるが、矢掛町はその条件が整っていると考える。同計画の認定メリットとして、町並み環境整備事業、都市公園事業、都市再生整備計画事業、環境改善推進事業、歴史的観光資源高質化事業、生きた歴史体験プログラム事業など国の支援措置が受けられることにある。

全国では90の自治体が認定を受けており、岡山県内では高梁市と津山市が含まれている。

当町も申請すべきと思うが担当課の見解を問う。

答　教育課長

歴史まちづくり法を活用して歴史と文化のかおるまちづくりに反映させることは検討に値する内容。

同計画では町内の文化財の中から特に歴史的風致を維持向上させるべき重点区域を定める必要がある。

町内には本陣・脇本陣を含む重伝建地区のほかにも文化財が多数点在しているが詳細な調査がなされておらず、教育課としては文化財の保存と活用を全町的に網羅した『文化財保存活用地域計画』を策定し、歴史的評価が出来得なかった文化財にも光を当てまちづくりに活かすことが先決であり、国と同様に町としても教育課だけでなく横断的な対応が必要と考えている。

確実な我が町の文化財の継承によって地域の振興につなげていきたい。

＊ 歴史的風致の概念 ＊

歴史上、重要な建造物及び周辺の市街地と人々の営みが一体となった「歴史的風致」⇨　計画の対象

- ○ 維持及び向上により個性豊かな地域社会の実現
- ○ 都市の健全な発展と文化の向上に寄与

歴史と伝統を反映した人々の営み・生活・活動

歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地

質問台を降りて…

ひとり言

過去3回歴史的風致維持向上計画を提議しました。今回の質問では計画のメリットを強調したつもりです。ある程度の理解は得られたと思います。早期実現を願うばかりです。

自主防災組織の避難訓練を いかに推進するか!!!

昼田政義（ひるた まさよし）議員

問 自主防災避難訓練の推進について問う。
①避難訓練の実施割合は？
②避難訓練をいかにして推進するか？
③役場の避難訓練の実施はいつか？また、災害時の手順・行動・連絡網を職員は熟知しているか？

答 総務防災課長
①については実地移動の避難訓練のほか、図上訓練として地図上で危険個所や避難経路の確認等の座学や避難所運営など防災訓練の実施は、令和4年度4地区で8回延べ350名、令和5年度は予定を含め6地区で10回延べ550名以上の方々が参加している。

高柳町内会避難訓練状況

②については、避難行動に支援が必要な方を対象に個別避難計画の作成を推進している。
今後も、避難訓練、個別避難計画の作成などについては、専門的な知見をもったアドバイザーなどに助言をいただける国・県の事業を積極的に活用する。

③については、役場内の大規模な避難訓練は平成19年に実施し、庁舎以外の公共施設では、毎年避難訓練を実施している。初動対応、災害時の手順、行動について周知し、機会をとらえて訓練を行い、実効性を確保したい。

問 町は自主防災組織の防災訓練を推進するのか。また、防災訓練を実施しやすい環境作りを考えているか。

内閣府主催の避難訓練（中川地区）

答 町長
現在の自主防災組織活動支援の補助制度では対象経費の補助率は8割となっている。
今後は訓練・研修などのソフト事業について制度の見直しを検討したい。

消火訓練の様子

質問台を降りて…
ひとり言
自主防災組織の避難訓練が活発になることを望みます。

農業振興対策基金運用
10年後の地域計画策定進捗

岸野榮治（きしの えいじ）議員

問 農業振興対策基金について次の3点を問う。
①有害鳥獣侵入防止柵整備支援事業の利用概況。
②農地流動化助成金事業の実績。
③農業共済収入保険助成事業の経過状況。

答 産業観光課長
いずれも令和5年10月末現在の状況としては、①については1件9万3千円、②については37件641万8千円、③については現在、岡山県農業共済組合井笠支所へ申請書類等の取りまとめを依頼しており、2月上旬に補助金交付予定となっている。

提言 鳥獣被害の予防対策へは多数の地域要望があるにもかかわらず申請件数は低調だ。利用しやすい制度として、項目内容の再考を早急にお願いする。

イノシシに荒らされた田

問 10年後の地域農業の将来を設計する地域計画策定の進捗状況を問う。

答 産業観光課長
町内全域の18集落において、地域農業の将来の在り方を定めた人・農地プランを令和2年度に実質化している。現在行っている地域での話し合いの場において調整及び協議していきたい。矢掛町の農地が適切に利用されるよう農地の集約化に向けた取組を進めることが重要であり、地域での話し合いの場を増やすなど、関係者と十分協議を図りながら地域計画を策定したい。

提言 地域計画を策定し、目標地図として作成する作業は、将来の構想が出来、皆に理解され、共有されることが策定作業には重要である。充分な話し合いの中農地が将来へわたり守られることをお願いする。

75歳以上の耕作者(赤色)と中心経営体の耕作者分布図(里山田)
○こうした資料を基に地域計画を策定していく

質問台を降りて…

ひとり言

防護柵と地域計画策定により矢掛の豊かな大地と緑が守られるといいね。

本町の教育行政での防災教育は？
充電設備の設置について問う

小塚郁夫（こづか いくお）議員

問 自然災害の中で自分の身は自分で守る防災教育の重要性は一段と増している。子育て世代や多くの町民共通の懸案事項と考えるが、特に教育現場において、保育園、小学校、中学校の現状を問う。

①防災教育を年間何時間程度行っているのか？

②どういった内容の授業で避難訓練を行うのか？

③保育園の防災教育（避難訓練）はどのように行っているのか？

答 教育課長

①小・中学校では約30時間程度の防災教育を行う。学校安全年間計画を立て毎月各学年で1年を通して防災教育を行う等している。

②避難訓練は年間4時間を計画し、地震・火災・不審者を想定して全学年一斉に実施する。土砂災害、洪水想定訓練を行う学校もある。

答 健康子育て課長

③自分で判断して行動することは困難なため紙芝居等で地震や火災の恐ろしさ・行動を保育の中で話し、自然に防災教育を行っている。また火災は毎月1回、風水害・地震・防犯はそれぞれ年1回実施している。

問 万一の災害発生時、保護者への連絡方法は？

答 教育課長

情報配信メールシステムにより教育委員会や各学校の状況、児童・生徒の安否等の情報を保護者の携帯やパソコンに連絡する。メールは電話より通信が容易で情報の伝達がスムーズに行え、一度に多数の保護者に情報を届けることができる。

情報配信システムにより保護者宛に届いたメール

答 健康子育て課長

災害に備えてお迎え体制ガイドラインを作成し、保育支援システムにより連絡する。このシステムは令和4年度に導入し全ての保護者が登録しており、スマホやタブレットで連絡が取れるようにしている。

問 脱炭素化の動きが加速する中、本町の中山間地域や運動公園に急速充電設備等設置の可否を問う。

↑現在、道の駅にある急速充電設備

答 町民課長

本町として今後地球温暖化対策実行計画の中で脱炭素化社会実現への一つとしてEVの普及促進を図る必要がある。公共施設への充電設備について効率的、効果的な場所の選定を含め関係各課と協議する。

質問台を降りて…

ひとり言

脱炭素化問題でもう少し提案すればよかったです。

矢掛高等学校 やかげ学 × 矢掛町議会 議会だより

私たち矢掛高校生が議会広報紙編集に挑戦しました！（令和５年12月21日･令和６年１月11日参加）

「地域で学び、地域を支える活動」を重視する矢掛高校では、地域連携の一環として「やかげ学」を実施しています。その中で、私たちは町づくりの基本姿勢を学びつつ、同じ施設に一年間通って、大人に混じって活動をしていきます。

今回、私たちは「役場の職場体験」の中で「議会だより」編集に参加しました。町議会定例会の様子を中心に、広報記事の編集に携わりました。

私たちが編集に参加した紙面は、２頁とこの頁です。ここでは、私たちが参加して感じたことを取り上げます。

普通科２年（総合コース）

実際に参加して、知らない言葉ばかりで難しかったけれど質問されたり疑問に思ったことがあれば自分の意見をどんどん言うことが大切だと感じました。

藤井咲羽

議会だよりを初めて見て、文字や表に表すとき構成を一から考えて町民の方に伝わりやすく工夫されているのを知って大変さを感じました。

三好彩花

広報広聴常任委員会の活動に参加してみてよく分からないことだらけでとても難しかったです。難しかった内容を理解できるように勉強がんばります。

阿部瑛太

地域ビジネス科２年

やかげ学で参加してみて、議会であったことを簡潔に伝えるようにしていることがわかりました。難しかったことが多くありとても勉強になりました。

谷許　遼

やかげ学で、町議会での広報紙作成に初めて参加させていただきました。思っていたよりも明るい雰囲気で会議を行い、とても有意義な体験をすることができました。

立間叶夢

私は、やかげ学の議会事務局での活動を通して、まちづくりについてより理解を深め、より良い社会をつくることができる人になりたいと思いました。

坂川未来

- 普段は経験できない体験ができて楽しかったです
- 知らない言葉ばかりで難しかったです
- 貴重な体験ができてよかったです

＊＊

令和５年度　矢掛町議会常任委員会・井笠圏域組合議会

先進地事例を我が町の事業・施策に活かす！

【視察研修報告】

＊井原地区消防組合議会＊

同組合議会は大分県日田玖珠広域消防組合にて大規模風水害への対策などについて研修を行いました。

同地域は度重なる自然災害で甚大な被害を受けた経緯から、各防災機関との連携体制を構築しており参考となるものでした。その他災害時のドローン物流の確立など今後必要な取組を学びました。

＊笠岡市・矢掛町中学校組合議会＊

同組合議会は広島県教育支援センター及び中高一貫校の県立広島叡智学園にて視察研修を行いました。

不登校生徒の個別最適な居場所・学びの場の必要性や、国際的な視野を育むプログラムの重要性について、さまざまな観点から質疑を行い、教育の原点をあらためて考える良い機会となりました。

＊井原地区清掃施設組合議会＊

同組合議会は高知県香南清掃組合まほろばクリーンセンターで視察研修を行いました。

この施設では廃棄物の焼却時に生じるエネルギーを利用しての発電や、焼却熱を回収して温水施設への供給を行うなど、サーマルリサイクル（焼却エネルギーを再利用するリサイクル手法）の有用性が再確認できました。

＊西部衛生施設組合議会＊

同組合議会は山口県周南市・岩国市のゴミ処理施設にて視察研修を行いました。

ゴミの処理過程での資源物回収と再資源化や、プラスチック新法への取組、また施設の焼却余熱は売電及び温浴施設の運営に有効利用するなど、エコロジーな循環型システムの構築は、今後の参考となる実例でした。

歴史と文化…地域の魅力を知り誇りと愛着を育む

若者によるまちの未来づくり・若者と連携した公民館活動

総務文教常任委員会

同委員会は所管の施策事業に関して研修を行うため、10月31日から11月2日まで先進地視察を実施しました。

まず滋賀県近江八幡市では、重伝建地区の町並み保存と空き家の店舗活用、更に観光客の受け入れについての研修を行いました。

全ての取組に関連性があり、色々な工夫がなされる中、会議や相談など「地域住民の協働」のもと実行されており、その重要性を学びました。

歴史ある風情(重伝建)を残す近江八幡市

若者の活動拠点施設(旧村田邸"村半")
自由な発想で若者が活用できる施設

次に岐阜県高山市では、重伝建地区の町家を活用し、若者による地域活性化を推進するための拠点施設を視察しました。

市内外の若者が様々な活動・交流を通じて地域の魅力を知り、町への誇りと愛着を育み「関係人口」の創出につなげるこの取組は、矢掛町にも反映すべきと思える事業でした。

福井県越前市での研修内容は公民館を活動の拠点とした青年と地域の関係を構築するという事業でした。若者と時間を共有し「穏やかにつながる」というテーマは今後の矢掛のまちづくりに大いに参考となるものでした。

地元若者と連携した公民館活動により
"寄り添う地域社会"を作る…研修風景

公共交通と地域通貨…新たな交通体制構築を学ぶ

全町的な交通弱者への有効対策は?…誰もが暮らしやすい町へ

産業福祉常任委員会

同委員会では我が町の懸案事項の一つである公共交通の在り方について、先進地である広島県安芸太田町で研修を行いました。

地域通貨:morica(モリカ)
住民生活に合ったサービスを展開

様々な交通体系の実証実験を経て、現在は『定額タクシー』の運行を実施しています。

これは町内ならどこでも定額負担でタクシーが利用できるというシステムです。

既存のデマンド交通と統合して交通網の再編を行い、利便性の高い公共交通体制を構築していました。

更に地域通貨によるキャッシュレス決済システムを導入し、交付したカードでタクシー料金のほか民間事業所での買い物等の支払いもでき、町内経済の活性化をも促進しているとのことでした。

自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進と平行して構築されたこのシステムは、今後の我が町の公共交通の在り方に大いに参考となる事業でした。

そのほか山口県萩市と周南市では中山間地域の課題対処に準じた取組についてそれぞれ研修を行いました。

多面的機能の増進施策に
関する研修を行う

認定農業者への農地の集積や景観作物・新規就農者への支援など中山間地の抱える課題対処に大いに参考となる研修でした。

工夫された中山間地域への
移住促進施策を学ぶ

臨時企画 ―まちづくり懇談会【二十歳のつどい実行委員取材録】―

二十歳の夢…生まれ育った町の未来を語る

令和6年1月7日、やかげ文化センターにて華やかに『矢掛町二十歳のつどい（旧成人式）』が開催されました。

広報広聴常任委員会では、町内在住の20歳を迎えられた同催しの実行委員会の方々をお招きし、今の矢掛の町を俯瞰しながら、青年としての「未来の町への思い」を「まちづくり」の参考にするべく懇談を行いました。

若者たちが、いま思い抱く「まち」への感慨とは？…賑わい創出をベースに、変ぼう著しい生まれ育った町の未来を語ります（収録日・令和5年11月25日）。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【参加者】

『矢掛町二十歳のつどい』

＊実行委員会＊

委員長　渡邉力也（わたなべりきや）さん

委　員　古城佳奈（こじょうかな）さん

委　員　原田舜也（はらだしゅんや）さん

矢掛町議会　広報広聴常任委員会

小塚委員長　まずご参会いただき感謝申し上げる。

若い人たちの町に対する思い、また町の将来像など様々な観点からのご意見をお聞きし、議会として今後の「まちづくり」の参考としたいので忌憚のないご発言をお願いする。

トークテーマ　矢掛町は住みたい町か？

花川（コーディネーター）　懇談の前に、現在この町に暮らしている中で「賑わい創出」という町の環境変化をどのように感じているか、現況に対する二十歳の方々の認識や感慨をお聞きしたい。

渡邉さん　最近の商店街は変わり、道の駅とかも観光客や人が増えたと感じる。

電柱も無くなり街は良くなっているなと感じる。

◆質問項目◆

○町の賑わい・生活環境（豊かさ）

○就業問題・通勤環境（家族生活）

○子育て・教育問題（育成環境）

古城さん　商店街を中心に色々なイベントがあり、若い子の間でも特定のお店が話題に上るなど、町の良い評判を聞くのは、もう当たり前のようになっている。

原田さん　大名行列をはじ各イベントの盛り上がりがすごいと感じる。街なかで友達に会う機会も増えた。

活気！変わり行く街…賑わう町について思うことは？

花川（コーディネーター） 人口減少が進む中、町は賑わい創出推進のため観光振興に取り組んでいるがどう思うか？

渡邉さん この町に住みたいと思ってもらうには「良い所だ」と感じられることが動機づけになると思う。

福田副委員長 私はこの町に12年前に移住したが、やはり良い所と感じて移住を決めた。

原田さん 町民側から「観光に力を入れるべき」との声があったから進められたのでは？

観光産業が発展したら外国人とかも町を訪れ、矢掛の良さが更に広まり賑わうと思う。

岸野委員 いつも町に観光客が来て賑わうと田舎暮らしもいいと思えるのでは。

古城さん 町が安定していると思うし昔の矢掛と違うと感じる。町に帰った時に観光客などが増えているのを見たらなんだか嬉しいしこれからの町が楽しみ。

小塚委員長 賑わい創出はつまり定住施策の一環。

土井委員 自分の住む町に誇りを持つことが出来れば一層愛着も湧くはず。

花川（コーディネーター） 観光振興による賑わい創出で、町民自身が町の素晴らしさに気づくなど少しずつ意識は変わって来ており、若い世代には良い影響があることが分かった。有り難いことに矢掛は古いものを再生して後世に残すことで人々から評価を得ることができた。

古城さん 賑やかで不便があまり無かったら、大学とか働く場所にもよるが、この町に住もうという人は多いのではないかと思う。

生活基盤…通学・通勤の不便、更に働く場所はあるか？

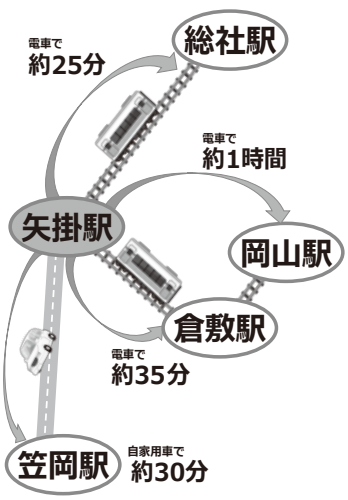
花川（コーディネーター） 賑わい創出・観光振興は町民に定住を意識させているが実際に通学する皆さんの感覚は？

渡邉さん 総社市内へ通学しており約40分程度。それほど渋滞はなくスムース。

古城さん 倉敷市内への通学は自家用車と電車の乗り継ぎで約1時間。渋滞を避けてこのようにしており、本も読める。

原田さん 倉敷市内へ自家用車で通学しており約1時間10分。

1限が8時45分からで、通勤ラッシュの時間帯と重なり渋滞はどうしようもないけど、それほど苦には感じない。



小塚委員長 近隣市は充分通学・通勤圏内と確認できた。都市に隣接する矢掛町としては、アクセス道路や公共交通を整備し、住環境が良ければ若い世代の定住は望めると推測できる。

岸野委員 道や橋が整備され、矢掛も都市通勤圏となっており、地価の高い市域に家を建てなくてもよくなりその分を家庭生活、特に子育てや教育に回すことができ、家計も助かるはず。

こういったことが住みやすさ暮らしやすさになる。

人づくりは町づくり！教育や子育て…感じることは？

渡邉さん　総社市内の高校へ進学したが矢中出身者は成績が優秀でレベルが高いと感じた。矢中で友達と切磋琢磨したことが良かったのだと思う。

古城さん　私は倉敷市内の商業科の高校へ進学したがスポーツでも矢中出身者は優秀で運動ができる人も多く、矢中はすごいなと感じていた。

原田さん　地元の高校へ進学したが半分以上は町外の人だった。矢中出身の人は勉強ができる人が多いイメージがあった。

小塚委員長　相対的に矢掛中学での学習環境は皆さんにとって有意義であったと捉えることができ、矢掛の教育に対する取組の一定の評価になると思う。

花川（コーディネーター）　子育て・教育の環境整備は定住化を推進する上で重要な取組。

これから親世代となる皆さんにとって、就職、そして子育て・教育など人生設計をする上で、これからをどう考えているか、どんなことでもいいのでご意見をお聞きしたい。

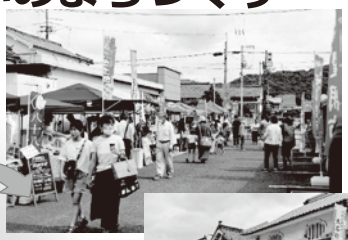
渡邉さん　矢掛町に住むとして、家を建てるとなった時、新しい分譲地で周りに若い世代が多ければ、家も建てやすいと思うし、自分の子供にとっても良い環境だと思うので、そういった分譲地を整備して欲しい。

原田さん　私の実家はそういった環境で子育て世代の家ばっかりだった。

＊＊＊

町内全域へ広がる"夢"　にぎわいのまちづくり

やかげDMOによる全町への誘客を図るキャンペーン
「クリームソーダin矢掛」「OIMO FES おいもがい～もん IN YAKAGE」


「日曜朝市」
(毎月第２日曜日)

重伝建地区を舞台に
開催される各種イベント

矢掛の代名詞「やかげの宿場まつり大名行列」

山ノ上地区の伝統を守る「干柿まつり」

毎年親子づれでにぎわう「キッズフェスティバル」

美川
川面
矢掛
矢掛駅
小田
三谷駅
中川
山田
三谷

従来より町外からの誘客を促していたイベントや事業に加え、
町内では新たな賑わいを創出する取組が数多く実施されている

花川（コーディネーター）　矢掛町の子育てに対する施策は近隣市町に比べて大変手厚い。

同時にUターン・Iターンに対する様々な補助施策も充実している。先ほどの住環境のご意見にも対応しており、若い皆さんの要望と合致している。

最後に懇談で感じたこと分かったことなど、総体的な感想をお聞きしたい。

渡邉さん　この度の懇談で自分が生まれ育った町のことがいろいろ分かった。

自分が住んでいる矢掛のまちづくりに私たちの世代として、何らかの形で関わって行けたら嬉しく思うし夢を形にしていきたい。

古城さん　倉敷とかへ出ている中で、段々と変わっていく矢掛の町を見ていると、ここへ住みたい、生活するのもいいのではと思った。

自分たちの要望が町を変えるんだなと感じた。

原田さん　自分が知らないところで町ではいろいろな政策が実施されていることを教えられた。ずっと矢掛に住んでいるが、二十歳になりまちづくりについて見る目が変わってきた。

岸野委員　若い人と話し合う機会はあまりなく二十歳の人の考えは斬新で年代格差を感じるものの、大いに参考になるものであった。

土井委員　町の振興はまず夢を語ることから始まる。

今後も若い人の視点から大いに夢を語って欲しい。

福田副委員長　懇談の中で矢掛の良さをあらためて再認識されたのではと思う。

議会は今後も若い世代のお話しをお聞きしながら情報交換も含めて、これからも「まちづくり」のヒントを得たいと考えるのでその旨お願いし閉会とする。

まちづくり懇談会《おわり》

町びと讃歌

個人や団体を問わず、趣味や文化講座・生涯学習・ボランティアなど様々なジャンルで明るく元気に活動されている“町びと”を取材し、豊かな我が町「やかげ」を紹介します。

農事組合法人 山ノ上干柿組合 の皆さん

コロナ禍で開催が見送られて来た山ノ上地区最大のイベント『干柿まつり』。

令和5年12月24日―4年ぶり22回目のまつり開催に組合員をはじめ地区住民の皆さんは歓喜の表情…。

平成27年の法人設立から今までには「苦労があったなぁ」と山岡威代表理事。

現在、組合の登録出資数は30数件あるものの高齢化などの事由で実働者はパートさんを含めても20名弱。

丹精を込めて作り上げる干柿は年間5～6万個の数にのぼり、人の手を介する作業だけに、その継続には「現状を見ると一抹の不安がある…」と山岡さん。

我が町が誇る山ノ上地区の伝統食文化である干柿を次世代につなげる担い手の育成は、決してこの地区の皆さんだけの問題ではないのでは…と感じました。

町内外の多くの方々から高い評価を得ている山ノ上の干柿は矢掛町ブランド認定品として、またオレンジ色のカーテンをなびかせる季節の風物詩として「いつまでも残していきたい」と穏やかな笑顔で山岡さんは静かに語られました。

数年ぶりのまつり開催を前に入念な会議を行うなど苦労もありました。

干柿職人の逸品を求める来場者

議員閑話 こころ音（ねね）

心にスペースを

矢掛町議会 議員 原田秀史

物や情報が溢れ、絶えず何かに追われる様な忙しい現代を生きる私たちは、いつのまにか心に余裕が持てなくなり相手に対する思いやりや気遣いが希薄になり、逆に相手の言葉に対し、感情が制御できず、攻撃的な態度をとることもあります。こうした感情に心が支配されると、ちょっとしたきっかけで怒りが爆発し、対人関係が悪くなったという経験は誰もがあるのではないかと思います。

ダライ・ラマは「心の中に、怒りに対抗できるものを持つべきだ」と言っています。感情を受け止め向き合いコントロールするには自身を客観的に捉えると共に、心の変化に対応するための「心に余裕というスペース」を持つことが必要です。スペースを持つことにより人に対する寛容さや思いやり、また感謝の気持ちが育まれることによる相乗効果により人々の絆が高まる住みやすい社会を願います。

編集後記

令和6年も一ヵ月余りが過ぎました。今年も本紙を通じて町政・議会活動を広報してまいる所存ですが、前31号の表記間違いを報告しなければなりません。3ページの公営企業会計決算報告で病院事業会計を「地域開発事業」と表記していました。

正しくは「病院事業会計」です。委員総掛かりで校正を行いましたが何とも詰めが甘い結果に…。

委員長としての本年一年のテーマは辰年だけに『画竜点睛』と致します。

《委員長》

※訂正⇩第31号3ページの誤表記、お詫び申し上げます。

□編集／矢掛町議会広報広聴常任委員会（議会事務局）
〒714-1297（役場専用）岡山県小田郡矢掛町矢掛3018　☎0866(82)1119　FAX 0866(82)9020
□発行／矢掛町議会　□発行責任者／矢掛町議会議長　花川大志

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています